広島独文学会主催　第7回レクチャー講演会

# オペラを通して現代（いま）を観る
## ～リヒャルト・ワーグナーを例として～

講師　**北川 千香子** 氏

慶應義塾大学商学部准教授

オペラといえば、敷居が高いとか、日常には縁遠いといったイメージをもつ人は少なくないでしょう。しかし、オペラのテーマは実は現代に生きる私たちにとって身近で、だからこそ私たちに省察の契機を与えてくれます。本講演では、19 世紀のドイツを代表する作曲家リヒャルト・ワーグナーのオペラを取り上げ、作品自体とその現代演出を分析しながら、芸術作品がいかにして「いま」を映し出しているかを読み解いていきます。

北川 千香子先生

【講師プロフィール】
広島県生まれ
広島大学文学部卒業（ドイツ文学語学専攻）
広島大学大学院文学研究科博士課程前期修了　修士（文学）
広島大学大学院文学研究科博士課程後期入学
テュービンゲン大学、ウィーン大学、ベルリン自由大学留学
広島大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学
ベルリン自由大学博士課程修了 Ph.D.（演劇学）
【現在】慶應義塾大学商学部准教授、
早稲田大学オペラ/音楽劇研究所招聘研究員

【主な著作】
『文化を問い正す―舞台芸術の視座から』（共著）彩流社 2021
『想起する帝国：ナチス・ドイツ『記憶』の文化史』（共著）勉誠出版 2016
マルティン・グック：『ワーグナー』上、下巻（共訳）岩波書店 2013
„Versuch über Kundry — Facetten einer Figur“ （単著） Peter Lang 2015

Richard Wagner

**日 時：2024年10月5日（土）14時～15時30分**

（講演　75 分程度、質疑応答 20 分程度）

場　所：広島大学文学部講義棟　B104 教室　　対面
対　象：学部生、院生、一般の方
定　員：80 名
申込不要

お問合せ先：
小林英起子（広島大学文学部ドイツ文学語学研究室）ekiko258@hiroshima-u.ac.jp
【主催】 広島独文学会、広島大学文学部ドイツ文学語学研究室